

平成30年度 学校自己評価 学校関係者評価

兵庫県立神戸北高等学校

1 学校経営の重点

- (1) 開かれた学校づくり
 - ア 地域の人的・物的資源を活用するとともに、地域に開かれた学校づくりを進める。
 - イ 保・幼・小・中・自治会と連携し、地域の拠点として各行事を主催・協力・参加する。
 - ウ 学校関係者評価を活用し、学校の活性化につなげる。
- (2) 生徒の自主・自律・共生の育成
 - ア 生活習慣を正し、校内外における挨拶を含めたマナー指導を徹底させることで、高校生としての姿を確立させる。
 - イ 学業と部活動を両立させ、バランスのとれた高校生活を過ごさせる。
 - ウ 人権教育の充実を図り、ともに生きる心を育む。
- (3) 特色化の一層の推進（福祉ボランティア類型の一層の充実）
 - ア 幼児・児童・生徒・高齢者との多世代交流をすすめ、コミュニケーション力を育む。
 - イ 地域に根ざした高校として、地域との協働による取り組みをさらに進める。
 - ウ 高大連携の取り組みをすすめ、進路意識の醸成を図る。
- (4) 授業第一主義と確かな学力の定着
 - ア 確かな学力を培う「魅力ある授業」を創造する。
 - イ 予習・授業・復習の学習サイクルを定着させる。
 - ウ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育成する。
- (5) 安心して過ごせる学校づくり
 - ア 家庭・地域・関係機関との連携を図り、生徒を見守る体制を構築する。
 - イ より実践的な安全教育・防災教育を徹底し、危機対応力の育成を図る。
 - ウ 環境教育をより推進するとともに、環境美化に努め、施設・設備を大切に使用する公共心を育む。
- (6) 活力ある組織と明るく爽やかな職場づくり
 - ア 生徒を中心に据え、情報の共有化をすすめる。
 - イ 服務規律を確保するとともに、教職員の資質・能力の向上を図る。
 - ウ 勤務時間の適正化により、生き生きと働ける職場をめざす。

2 学校自己評価について

12月に実施した自己評価アンケートの結果を以下に示している。それぞれの項目について、「よくできた」…4点、「まあまあできた」…3点、「あまりできなかった」…2点、「できなかった」…1点、「わからない」…除外として集計し、平均3点以上を「A」、3点未満を「B」としている。

今年度は、当該の分掌（部・学年）に所属している教員による評価と、所属していない教員との評価を分けて集計した。

自己評価結果を受けて、今年度の振り返りと来年度への改善点を検討したものが次の表である。

＜総務部＞							
全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.2	A	3.5	A	3.1	A	日常の清掃活動やゴミの分別を徹底させ、校内美化を図る。	管理委員によるゴミステーションの分別確認、学年や顧問と連携しての注意喚起を行う。
2.1	B	2.0	B	2.2	B	緑化委員会活動を活性化させる。	緑化委員会の活動を体系化させ、積極的に実働させる。生徒が主体となり、活発に活動できるようにする。
3.6	A	4.0	A	3.5	A	安全・防災教育の充実をはかる。	地域防災教育活動をさらに充実させ、震災行事等を通して防災への関心を一層高める。
3.6	A	3.5	A	3.6	A	学校ホームページの充実と「北高だより」の発行で本校をアピールする。	学年や部と連携し学校ホームページの更新をこまめに行う。 昨年度以上に広報誌の内容の工夫、充実を図る。
3.0	A	2.5	B	3.1	A	特色選抜学校説明会やオープンハイスクールで魅力ある学校紹介ができる工夫をする。	各教科の協力のもと、内容を再検討して運営する。 また、昨年度以上に、生徒主体で運営できるように工夫する。
<p>＜今年度の振り返りと来年度への改善点＞ 例年、校内美化には力を入れており、昨年度に引き続き、古くなった机、いすの交換を積極的に行い、校内全体としてかなり改善されてきた。さらに、今年度は広報に力を入れるということで、北高だよりの充実を図り、それが評価されているのは良かった。しかし、参加人数が減少傾向にあるオープンハイスクールは、具体的な策を講じられずにいるので、来年度以降、改革が必要であると考えられる。地域の防災行事は新しいメニューを取り入れるなど改善を目指しており成功に繋がったのは良かった。反面、評価の低い緑化委員会の活動は水やりなどの例年通りの活動しかできず、来年度に向けて具体的な策を考えていきたい。</p>							
＜教務図書部＞							
全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.2	A	3.3	A	3.2	A	授業規律を確保し、生徒の学習意欲や興味・関心を喚起する指導の工夫、指導技術の向上を図る。	全ての教科において、研究授業による教員相互の評価や生徒による授業評価をとおして、指導の工夫や指導技術の向上を図る。
3.4	A	3.7	A	3.4	A	本校生徒の進路実現を図るべく類型や教育課程を検討する。	各生徒の進路実現が可能となるよう柔軟な教育課程の設定と類型の特色化を行う。
3.5	A	4.0	A	3.5	A	学校教育活動の公開に努める。	公開授業週間を年3回設定する。
3.5	A	3.7	A	3.5	A	図書館の活性化を図る。	図書委員による図書館運営を中心に、授業等での活用をさらに増やすべく、図書の整備や図書室の環境整備に努める。
<p>＜今年度の振り返りと来年度への改善点＞ 来年度以降に向けて取り組みの端緒を切った1年であった。次期学習指導要領に即した主体的・対話的で深い学びのための授業改善と、基礎基本の定着を目指した組織的な取り組みとしての学び直しについて本格的に議論を進めており、4月からの実施をめざしている。</p>							

<生徒指導部>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.4	A	3.7	A	3.4	A	今年の生徒指導スローガン「Yes We Can」をモットーに何事にもあきらめずチャレンジする精神を育てる。また、北高生としての自信と誇りを持ち、基本的な生活習慣を確立させるとともに、普段から自然に周りへの気遣いができ、日常の小さなことでもおろそかにしない心を育てる。	昨年度、創立以来最小の生徒指導件数であったことを受け、今年度は「やればできる」という意味で「Yes We Can」を生徒指導のスローガンにした。何事においても北高生としてのプライドを持ち、あきらめずチャレンジすることの重要性を育てたい。日常的な遅刻指導、服装、身だしなみ指導を行うとともに各種学校行事、生徒会活動の中で何事にも真心を持って自然と接し実践することができるような指導を行う。
3.4	A	3.7	A	3.4	A	ボランティアの意識を高め、将来の仕事や人格形成に役立つように様々な活動への参加を促す。	街頭での募金活動や小学校・幼稚園のプール指導補助など、学校行事で生徒が子どもや地域の人達と接する機会を作り体験することでボランティア意識を養う。
3.4	A	3.7	A	3.4	A	地域の人々との交流を図り、地域にある学校としてのアイデンティティを確立していく。	地元地域の活動である里山づくりに参加し、地域と共に教育環境作りを進める。また地域青少協や小・中学校と協力して地域音楽祭や、凧揚げ大会や餅つき行事等を開催することで地域住民（幼・保・小・中学生）とふれあう機会を作る。

《今年度の振り返りと来年度への改善点》

本年度生徒指導は1月22日現在8件で、昨年とほぼ同じ件数である。ほとんどが無断アルバイトである。生徒指導上の問題は少なくなったものの、意欲関心をもって取り組む生徒が少なく、指導が入らない生徒が増えてきたように感じる。諦めず、何事にもチャレンジする姿勢を養うためには自尊心、成功体験を増やしていくことが大切だと感じる。ボランティア活動では、盲導犬育成募金を行ったり、里山作りなどで地域と連携する活動ができた。来年度は子ども食堂などの参加体制を学校全体で確立していく必要がある。

<進路指導部>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.5	A	4.0	A	3.5	A	生徒の進路に対する意識・意欲の向上を図る。	進路ガイダンスや総合的な学習の時間などを通じて、生徒が自己の将来と向き合っているきっかけを提供し、進路に対する意識と意欲の向上につなげる。
3.3	A	4.0	A	3.3	A	職場体験の場を整える。	本校は就職希望者も多いことから、職業体験活動・ふれあい看護体験・インターンシップ（企業・官庁）などの体験の場を提供することで、現場で働くことについての具体的なイメージを持たせ、学校生活でのモチベーションを高める。
3.2	A	3.7	A	3.2	A	進路に関する情報を職員間で共有できるようにする。	週に一度の進路指導部会を通して、各学年と連携を図りながら、各学年の生徒の進学就職意識に関する情報など進路に関する情報を共有し、今後の進路計画が立てやすい状況を整える。
3.2	A	4.0	A	3.2	A	生徒や保護者にむけて進路や学習に関する情報を積極的に発信する。	『進路通信』を発行することで、情報共有が難しい職員に対してのみならず、生徒や保護者に向けて様々な進路に関する情報を積極的に発信し、より良い進路実現につなげていく。

《今年度の振り返りと来年度への改善点》

本年度は、進路指導部と各学年、および各学年間での連絡を密にするため、進路指導部会を毎週実施し、情報伝達や意見交換に力を入れた。また、進路ガイダンスをはじめとする各学年での進路行事や日本学生支援機構奨学金の予約採用に係る手続き、進研模試など学年と協力しながら取り組むことができた。就職に関しても、例年通り各種インターンシップやふれあい看護体験を実施することで就職に向けた意識を高めるとともに、3年生の就職希望者を対象とする就職対策講座を実施することで、民間企業からも順調に内定をいただくことができた。来年度は、大学入試制度の改変に対応するために、情報を収集するとともに、進路指導部会や『進路通信』を通じて、職員・生徒に対し、広く情報を提供していくことに力を入れたいと考える。また、就職希望者に対しても、引き続き積極的な就職斡旋を行ってきたい。

＜保健部＞							
全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.3	A	3.5	A	3.3	A	教育相談の充実、有効利用。	学年と連絡を密にしながらか相談が必要な生徒を早く発見する。
3.1	A	3.0	A	3.1	A	安全な環境づくり。	学期ごとに安全点検を実施し、危険箇所の発見、改善に努める。
3.2	A	3.0	A	3.2	A	保健委員会の積極的活用。	保健委員に健康に関する問題を考えさせ、アンケートを作成させ、結果を分析させる。全校生徒に対して知らせて、自分たちの生活を改善する契機とさせる。
3.2	A	3.5	A	3.2	A	健康診断結果の有効活用。	健診結果をもとに、要受診生徒の保護者に受診勧告書を出し、生徒の受診を促す。

＜今年度の振り返りと来年度への改善点＞

校内安全点検について去年度は学期ごとに行われていなかったため、本年度は学期ごとの安全点検を実施した。数か所の修繕が必要などころがあり、速やかに対応できたのが良かった。今後も確実に実施していきたい。毎月の教育相談は学年との連携を密に行ってきたが、さらに早期対応に努めていきたい。また、職員研修への参加を促したい。保健委員の活動については、担当トイレのハンドソープやアルコールの管理を徹底する意識を持たせたい。健康診断については受診率を上げるために、保健だより等で啓発していきたい。

＜第1学年＞

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.3	A	3.3	A	3.3	A	指導方針の共通理解を図り、生徒情報の共有を常に心掛ける。	学年会はもとより、日頃からも生徒情報の共有に努め、学年団全体で指導に当たる。
3.1	A	2.7	B	3.1	A	「やるときはやる、やればできる」を合い言葉に、失敗を恐れず何事にも挑戦する。お互いを高め合える「TEAM46」をつくる。	誇りをもって北高を「私の学校、僕の学校」と言える卒業生になるために、「できることはやる」ということを実践し、メリハリのある生活を定着させ、進路実現にむけて努力させる。
2.9	B	2.7	B	2.9	B	規則正しい生活習慣を確立させる。	手帳を活用し、連絡事項や日々の予定を記入させることで、学校生活・家庭学習を充実させる。
3.2	A	3.0	A	3.2	A	基礎学力を定着させる。	週末課題（国・数・英）に取り組みせ、漢字テスト・英単語テストも実施。理解不足の生徒には、考査前の質問会や補習を学年全体で取り組む。
3.1	A	2.3	B	3.1	A	進路実現に向け、生徒自身が自主的に考え、行動する姿勢を養う。	進学希望の生徒には、大学・短大・専門学校のオープンキャンパスに積極的に参加させ、進学について具体的に考えさせる。就職希望の生徒には、インターンシップなどの就職体験を通じて、社会人としての有り様について考えさせる。
2.7	B	2.7	B	2.7	B	ボランティア活動等に積極的に参加するとともに、活動を通じて地域との交流を図る。	地域貢献活動、ワークキャンプや小学校のサマースクール等への生徒の積極的な参加を促す。
3.3	A	3.0	A	3.3	A	保護者と連携を密にし、生徒一人ひとりを支援する体制を作る。	学年通信を定期的に発行し、学校・学年の取り組みを紹介する。学校・家庭における生徒の情報交換に努め、保護者と密に連絡を取り合い、生徒・保護者・教師が同じ方向にむかって、丁寧な取り組みに努める。

＜今年度の振り返りと来年度への改善点＞

指導方針の共通理解を図り、生徒情報の共有に努め、学年団全員で指導する体制はつくことはできつつある。次年度はさらに体制を固め、生徒の進路実現に向けて、生活指導・教科指導に学年団全員で取り組んでいきたい。

「やるときはやる、やればできる」を合い言葉に、お互いを高め合える「TEAM46」をつくることを目標に学年運営をしてきた。充分とは言えないけど、体育大会での学年演技・綱引きなど、いろいろな場面で「やるときはやる、やればできる」という姿を見せてくれていた。次年度もそういう場面を多く見たいと思っている。

手帳の活用し、学校生活・家庭学習を充実させることは、十分でなかったと思う。次年度は反省を踏まえて、よりいっそう規則正しい生活習慣を確立させたい。

基礎学力を定着させる取組みを学年主体で取り組んできたため十分な成果があげられていないことが課題である。

ボランティア活動に積極的に参加させることはまだまだできていないが、里山づくりのボランティアを通じて、徐々に成果があがっている。

＜第2学年＞

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
2.8	B	2.2	B	2.8	B	指導方針の共通理解を図り、生徒情報の共有を常に心掛ける。	学年会はもとより、日頃からも生徒情報の共有に努め、指導は学年団全体で当たる。
3.1	A	2.6	B	3.1	A	規則正しい生活習慣を確立させる。	昨年から引き続き、手帳を活用し、連絡事項や日々の予定を記入させることで、学校生活・家庭学習を充実させる。
3.2	A	3.2	A	3.2	A	基礎学力を定着させ、個々の進路希望、能力に応じた学力向上を目指す。	週末課題（国）に取り組みせ、併せて小テストも実施。課題未提出、努力不足の生徒には課題学習による手当てをおこなう。さらに、英語・数学の補習を行い、学力と意識の向上を図る。
3.1	A	3.0	A	3.1	A	学校行事を通して自主性を育てる。	文化祭や体育大会、修学旅行などの学校行事をとおして、各委員や代議員などを中心に、生徒の手で行事を運営し、充実させようとする姿勢を育てる。
3.2	A	3.0	A	3.2	A	ボランティア活動等に積極的に参加するとともに、活動を通じて地域との交流を図る。進路に対する意識を高める。	福祉ボランティア類型の生徒にはワークキャンプに参加させ、体験学習を積極的に取り入れる。希望者にインターンシップやふれあい看護体験に参加させ進路実現に対する意識を高める。
3.4	A	3.2	A	3.4	A	保護者との連携を図る。	学年通信を定期的に発行することで、学年団の方針や学校・学年の取り組みを紹介する。適宜、学校・家庭における生徒の情報交換に努め、保護者懇談会においても丁寧な取り組みの説明に努める。

＜今年度の振り返りと来年度への改善点＞

週一度の学年会で、指導方針の共通理解を図り、生徒情報の共有を心がけた。が、うまく連携がとれない場合もあった。来年度の生徒の進路実現に向けて、より連携を深めていきたい。

今未来手帳を活用し、規則正しい生活習慣を身につけさせ、学年の目標である、自分作り～1日1日を大切に～が実現できるように心がけた。来年度に向けより一層の充実を図りたい。

週末課題への取り組みは地道に続けた。各学期末には成績優秀者に表彰状を渡し、継続した力がつくようにした。

文化祭では各クラスで歌の発表を、体育大会では学年全体で集団行動を披露し、修学旅行では修学旅行委員会を中心に運営の一端を行わせ、成功に導いた。

ボランティア活動に積極的に参加し、里山活動では表彰された。

学年通信を定期的に出し、学校での生徒の様子を家庭に知らせている。メールメイトを活用して必要な連絡をしている。今後も連絡を密に取っていきたい。

<第3学年>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.2	A	3.3	A	3.2	A	生徒の適性と進路希望を把握し、進路実現のための効果的な働きかけを行う。	生徒の進路希望と適性を的確に把握するために二者面談や三者面談を充実させ、普段から生徒・保護者との意思の疎通に心がける。また、職員が外部の説明会等に積極的に参加するなど、最新の入試動向について理解を深めることで、生徒に適切な助言ができるようにする。
3.1	A	3.2	A	3.1	A	生徒の進路実現に必要な諸要素（学力・生活態度・マナー・根気など）を向上させる。	それぞれの進路実現のために必要な能力を身につけることを意識させ、その修得に向けて、学校生活のあらゆる場面において、生徒の意識改革を図る。
3.2	A	3.2	A	3.3	A	進路実現に向け、生徒自身が自主的に考え、行動する姿勢を養う。	志望する大学・短大・専門学校のオープンキャンパスに積極的に参加することで、自己の進路について深く考えるように促す。就職希望の者には、様々な就職指導を通じて社会人になることを意識させる。
3.2	A	3.2	A	3.3	A	保護者と連携を密にし、学校と保護者が一丸となり、生徒一人ひとりを支援する体制を作る。	学年通信を月1回発行するとともに、保護者向けの進路・就職説明会を実施することで、学校からの情報発信を続ける。
3.3	A	3.7	A	3.2	A	職員間で連携を取りながら、学年の生徒を学年全体で育てる意識を持つ。	生徒の様子や進路希望について、職員間で積極的に情報交換を行い、学年全体でサポートする。

<<今年度の振り返りと来年度への改善点>>

4月当初より担任の先生方が複数回二者面談を行い、生徒の理解を深め進路希望を実現するために行った。また進路等悩んでいる生徒に対しては即座に面談をし、前向きに取り組めるようにサポートを行った。必要に応じて保護者とも綿密に連絡を取り、連携をはかった。生徒には、普段のHRや学年集会で、学校生活で心がけていかなければならないことや社会に出ていくために何が必要なのかなど繰り返し話し、意識づけを行った。

教員で分担し、外部の説明会に参加しその内容を共有できるようにしたが、会議で一定の時間をとればさらに良かったのではないかと思います。次年度に申し送りたい。

就職では、進路指導部の先生より、授業をはじめ放課後面談や面接指導を実施していただいたため生徒の意識は高まり、大半の生徒が第1希望に内定をもらうことができた。

進学では、授業はもちろんのこと年度当初より進学者向けに各教科の協力の下補習を行い、地道に実力をつける手立てを行った。保護者向けの進学・就職説明会を進路指導部の協力のもと実施でき、有効な発信ができた。学年通信については、月1回発行をほぼ達成できた。

生徒について週1回の会議だけでなく普段から情報を交換をおこない、サポートすることを学年団が共有できていた。

<勤務時間の適正化新対策プラン指定に関して>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
2.6	B	/	/	/	/	勤務時間の適正化。	従事時間申告書の提出・定時退勤日の徹底、年休10日間取得を促進するとともに、会議の精選化を図る。

<<今年度の振り返りと来年度への改善点>>

評価は昨年度同様の2.6と、不十分な評価となった。

「定時退勤日」の徹底については、取り組みは十分とは言えず、引き続き職員への周知徹底を行っていきたい。

「年休取得」については、約2/3の教職員は目標を達成したが、1/3の教職員について年休取得を呼びかけていく。

「会議の精選化」については、緊急を要する等臨時の会議をもつこともあったが、資料の事前配付やスムーズな進行により、概ね達成できた。来年度に向けても、より会議の精選化に努める。

3 学校関係者評価について

2月12日に開催した学校評議員会（兼 学校関係者評価委員会）において、学校関係者評価を行った。主な意見を以下に示す。

なお、学校評議員（学校関係者評価委員）の構成は、大学准教授、企業役員、自治会役員、青少協役員、PTA役員、中学校長である。

- ・単年度でする評価するだけでなく、経年評価を継続できるような仕組み、もしくは指標があっても良いのではないのではないのだろうか。
- ・教職員による評価だけでなく、生徒や保護者のアンケートを取るなど、一步踏み込んだ評価が欲しい。
- ・勤務時間については目的と手段を取り違えないようにすることが大事。子どもと向き合う時間を確保することが大切で、やるべきことはやり、しなくてよいことは地域に任すなどが必要ではないだろうか。
- ・里山づくりの位置づけなど、北高は外との交流はそれなりにやってきた。それをどう刷新していくのかを考える必要がある。
- ・探究の意味や方法を教員がどう捉えているかも課題になるかもしれない。資質や能力をどう育てていくかを考えることも必要である。良いことをしようと時間がかかるが、勤務時間の短縮とどう折り合いをつけていくのか難しいところである。
- ・教職員の評価では、A Bばかりで対外的にうちの学校は良いでしょうとアピールしているように見える。